

わが職場における安全工具の考案について

長野・長野担当区事務所 小林 昌 則

要 旨

造林事業における災害の多くは刃物の取り扱い不注意によって発生している。

この原因を究明すると、鎌刃覆にも問題があることに気付き、誰でも簡単にとり付け、とりはずしができる、しかも安全性の高いものはないかと考え、ゴムバンドの強力を利用し、これに止め金具を取り付け、さらに作業時の移動に便利のように、腰に吊るす吊り金具を考案した。

はじめに

国有林野事業の第一線に従事する、私達の職場は常に危険がともなっている。気象条件、地形等、変化の多い山林内で、どうしたら安全が確保でき、業務の遂行ができるか、班全員で具体的に話し合いを行い、毎月の安全管理目標を定め、その中から一日の安全目標を捨い出し、実践している。しかし、現実には高令化に伴い、運動能力、判断力等の低下から災害を防ぐことは難かしい状態である。

本年も災害防止のための重点目標に「刃物の取り扱い注意」を取り上げ、細部に至るまで注意事項を徹底しているが、結果的には、災害がなくなるというのが現状である。

過去の災害事例を分析してみると。

1. ついうっかりしたことから。
2. 一寸した不注意から。
3. めんどくさいから。

等の理由で、安全手順を手抜きしたこと起因するものが大部分である。本年の災害もその例外でなく、「下刈鎌を研ぎ終った」とき、「刃覆をかけていて」等、まったく初歩的な災害原因を思うと、造林業に携わる一員として、安全のための刃覆をして「ケガ」をするようでは駄目だと考え、反省したところ、刃覆に問題があることに気付き、誰でも、簡単に取り付け、取りはずしができる、しかも安全なものはないかと考え、班員の意見を聞きながら考案したので発表する。

I 鎌刃覆の短所と改良点

1. 従来刃覆の短所

- (1) 安全手袋をしたまゝでは「ヒモ」が結びにくい。
- (2) 「ヒモ」が長く、手間がかかるうえ緩みやすく不安全である。
- (3) はずした刃覆は簡単に身につけられない。
- (4) ファスナー式は古くなると緩みができ、刃に固定しにくい。

2. 改良点

手袋をしたまま、安全に、しかも簡単に利用できる方法として。

- (1) ヒモを「ゴムバンド」に替えた。

- (2) ゴムバンドの先に「止め金具」を工夫して取りつけた。
- (3) はずした刃覆は、まとめて腰に吊すよう「吊り金具」を工夫した。

II 鎌刃覆止めの改良経過

改良経過は図-1のとおりである。

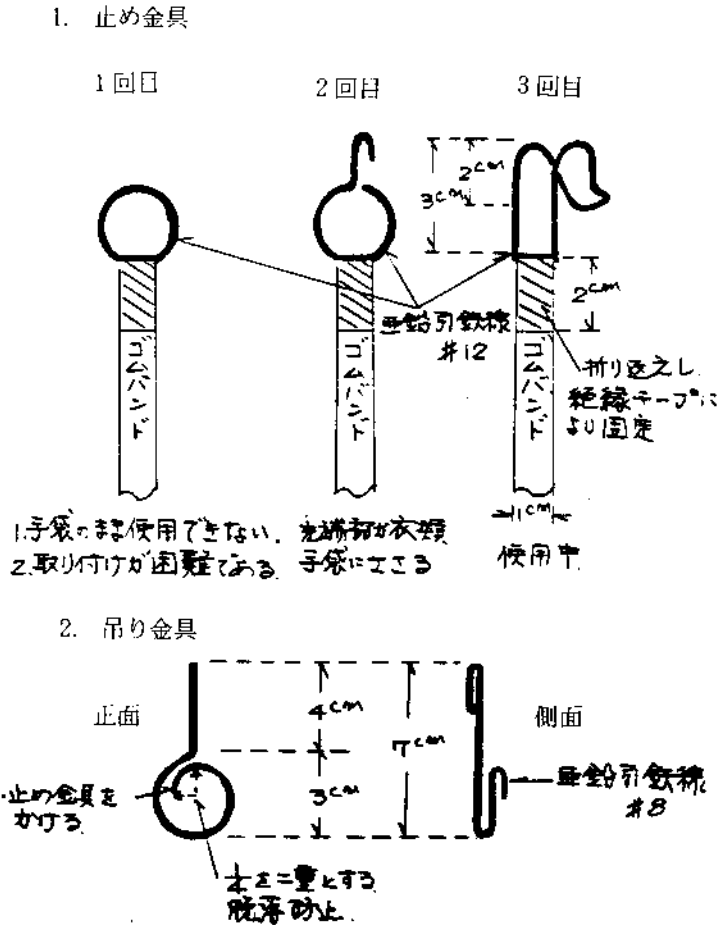


図-1 鎌刃覆止め改良図

III 改良後の利点

1. 手袋を使用したままで簡単に、早く、取り付け、取りはずしが出来、動作が楽になった。
2. ゴムの張力を利用することにより、ヒモに比較して、短かくても確実に固定でき安全である。
3. はずした後は、まとめて腰の吊り金具に吊ることにより、作業中の移動が容易である。
4. 作業中に刃覆を落すことがなくなった。

IV 改良に要した材料及び経費

品名	規格	単価	1ヶ当り 所要量	1ヶ当り 材料費	加工費	計
ゴムバンド	軽四輪チューブ (廃品)		55 ^{cm}	0	0	0
亜鉛引鉄線	吊り金具 # 8 止め金具 # 12	1 kg 250 円	20 ^g	5 円	一部溶接 10円	15 円
絶縁テープ	20m × 19mm	135 円	25 ^{cm}	2 円	0	2 円
合計						17 円

おわりに

以上のように改良し、自分で使用しながら同僚の意見を聴いたところ、簡単で使い易く安全であると好評をえた。

造林関係にたずさわる「プロ」の私達は、自分が持っている、下刈鎌、除伐鎌で「ケガ」をすることは許されない。

今回、改良した刃覆は、類似災害を無くしたいと思う一心で、話し合いの中から取り組んだものであり、今後使用していく中から更に改良を重ねて「ゼロ災害」に向けて安全な職場づくりに努力していきたいと考える。